胃がんリスク検診（ABC分類）

ABC分類とは

胃粘膜萎縮(老化)マーカーのペプシノゲン(PG)法と胃潰瘍・十二指腸潰瘍の主な原因と考えられているヘリコバクター・ピロリ(*H.pylori*)抗体価検査を組み合わせて、胃の健康度を評価する方法がABC分類です。

ABC分類		*H.pylori* 抗体価	
		(－)	(＋)
PG法	(－)	A群	B群
	(＋)	D群	C群

ペプシノゲン法とは？

「ペプシノゲン」という物質の血中濃度を測定することで胃粘膜の老化(萎縮)の状態を客観的に調べる検査です。

<この検査で注意が必要な方>

- 明らかな上部消化器症状のある方
- 上部消化器疾患治療中の方
- プロトンポンプ阻害剤服用中の方
- 胃切除後の方
- 腎不全の方
- ヘリコバクター・ピロリ除菌治療を受けた方

ヘリコバクター・ピロリ抗体価検査とは？

胃がヘリコバクター・ピロリに感染していないかを調べる検査です。ヘリコバクター・ピロリは胃酸の分泌や胃粘膜の免疫能の働きが不十分な幼小児期(4～5歳)頃までに感染すると考えられています。子供の頃に感染しなかった場合、大人になってから感染することは稀だと言われています。

A群
健康的な胃粘膜です
胃の病気になる危険性は低いと考えられます。
ただし、逆流性食道炎に注意しましょう。

B群
少し弱った胃粘膜です
胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。
少数ながら胃がんの可能性も。
一度、内視鏡検査を受けましょう。

C群
弱った胃粘膜です
胃がんなどの病気になりやすいタイプです。
内視鏡検査を受けましょう。
また、異常が見つからなくても、定期的な内視鏡検査をお勧めします。

D群
かなり弱った胃粘膜です
胃がんなどの病気になるリスクがあります。
かならず、内視鏡検査を受けましょう。また、異常が見つからなくても、毎年、内視鏡検査を受けましょう。

ABC分類対象外 → **E(Eradication)群(除菌群)**
ヘリコバクター・ピロリ除菌後の方は、E群(除菌群)として定期的に内視鏡検査を受けましょう。

ヘリコバクター・ピロリ感染と疾患

ヘリコバクター・ピロリ感染(幼小児期)

- なし → 胃粘膜炎症（－）胃粘膜萎縮（－） → A群：胃食道逆流症、機能性胃腸症
- あり → 胃粘膜炎症（＋） → B群：十二指腸潰瘍・胃潰瘍、胃MALTリンパ腫、未分化型胃がん
  → 胃粘膜萎縮（＋） → C,D群：過形成性ポリープ、胃腺腫、分化型胃がん

(井上和彦：ABC分類（胃の'健康度'評価、胃がんリスク診断）の基本と問題点.日本ヘリコバクター学会誌, 13 (2) 65, 2012より一部改変.
"日本ヘリコバクター学会より許諾を得て転載")

胃がんリスク検診(ABC分類)と胃がんとの関係

ABC分類各グループにおいて
同じ日の内視鏡検査で発見した胃がんの割合

		H.pylori 抗体価検査	
		陰性	陽性
PG法	陰性	A群 0% (0/2,802)	B群 0.21%* (7/3,395)
	陽性	C,D群 1.87% ** (39/2,089)	

** : p<0.01 (v.s. A群, B群)　　* : p<0.05 (v.s. A群)

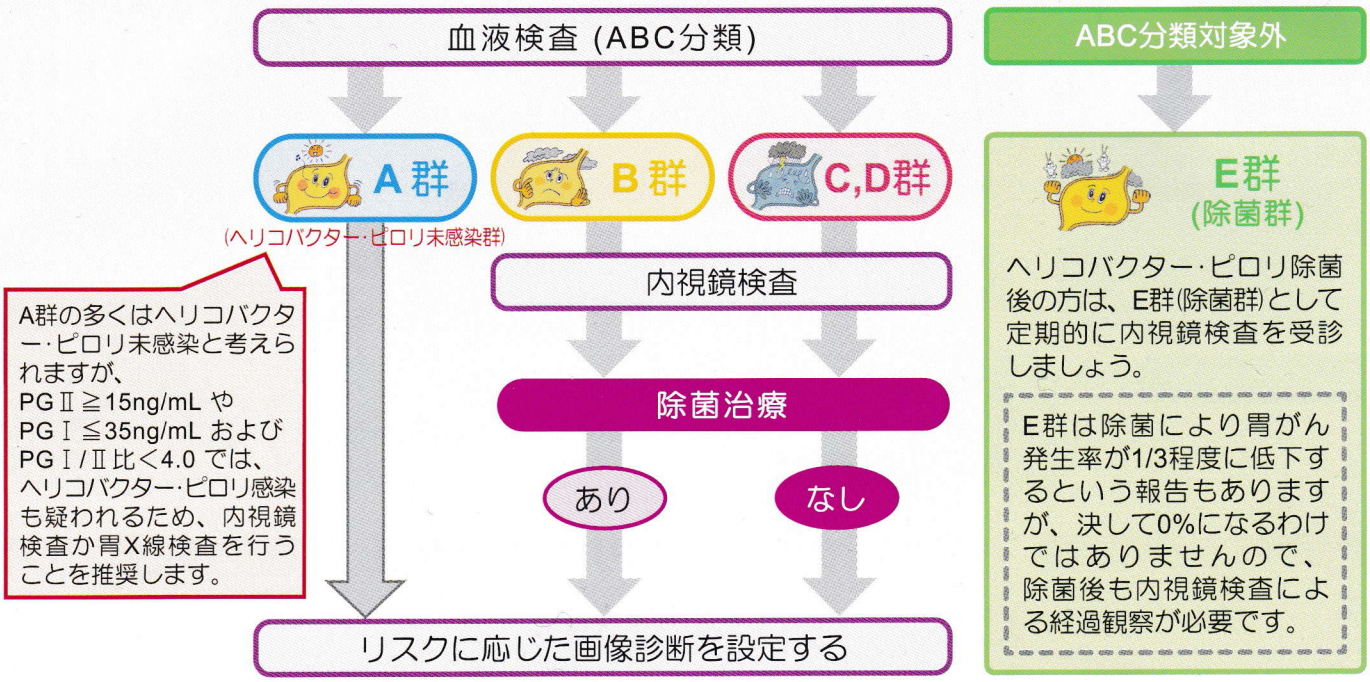
(井上和彦,他：Helicobacter Research, 15 : 422-427 2011.)

- A群からは胃がんが発見されていません。
- C,D群からは高率に胃がんが発見されました。
- PG法(陰性)・*H.pylori*抗体価検査(陽性)のB群からも胃がんが発見されています。

胃がんリスク検診(ABC分類)の運用

胃がんリスク検診(ABC分類)は、簡便な血液検査により受診者に負担をかけることなく、かつ客観的に各個人の日常生活における留意点を認識させることができる点、さらに定期的な内視鏡検査をすすめる根拠となるという点で有用です。
この評価方法に画像診断を組み合わせることにより、背景胃粘膜の状態を考慮した効率のよい胃疾患スクリーニングシステムをつくることができると期待されています。

<ABC分類の一例>



胃がんリスク検診(ABC分類)は、胃がん検診に代わるものではありません。

PG法や*H.pylori*抗体価検査は胃粘膜の状態を簡便に評価するのに有用ですが、胃がんを見つける診断法ではありません。胃がんの診断には内視鏡検査や胃X線検査などの画像診断が必要なことはいうまでもありません。

監修：川崎医科大学 総合臨床医学　井上和彦

栄研化学株式会社
〒110-8408 東京都台東区台東4丁目19番9号

6026 GK15MK
2014年10月作成